

第1回釧路市まちづくり基本構想策定市民委員会

釧路市まちづくり基本構想

～ 市民参加による策定のための基礎資料 ～

釧路市 総合政策部
都市経営課 基本構想担当

目次

はじめに 釧路市まちづくり基本構想の策定について

1 釧路市の人口動向と取組み

2 釧路市の経済動向と取組み

釧路市まちづくり基本構想の策定について

「釧路市まちづくり基本構想」策定にあたって

これまで、釧路市では、限られた資源を社会情勢の変化に即応して柔軟かつ重点的に投資する「都市経営」の視点に基づき、「財政健全化推進プラン」、「市役所改革プラン」、「政策プラン」の3つからなる「釧路市都市経営戦略プラン」を策定し様々な取り組みを行ってまいりました。これらの取り組みによって財政健全化が着実に進みまちづくりの基盤が築かれつつあります。

さらに、将来に希望の持てるまちの姿を見据え、特に「わかもの」・「女性」が未来に希望を持ち、安心して住み続けられるまちづくりを行うために「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定したところです。

今、生産都市として築かれてきた高い技術力や人材、先人から受け継いだ文化、豊かな自然環境など釧路らしい強みを活かしていくことを決意し、さらなる発展のために、地域が一体となって目指すべきまちの姿を共有しながら主体的にまちづくりを進めていくことを理念として制定された釧路市まちづくり基本条例のもとで、「都市経営」の視点による新たなまちづくりの指針として「釧路市まちづくり基本構想」を策定します。

ひがし北海道の拠点として持続可能なまちを築き、地域の強みを活かしたさらなる飛躍を目指すために。

1 釧路市の人口動向と取組み

(1) 総人口の推移と将来推計

本市の総人口について、国勢調査による人口の推移と北海道人口問題研究所の将来推計による人口を時系列でグラフ化しました。

本市は、戦後、昭和 20(1955)年～昭和 40(1960)年にかけて人口が急増しましたが、昭和 45(1970)年の雄別炭鉱・尺別炭鉱閉山などの影響により、一度伸びが鈍化しました。

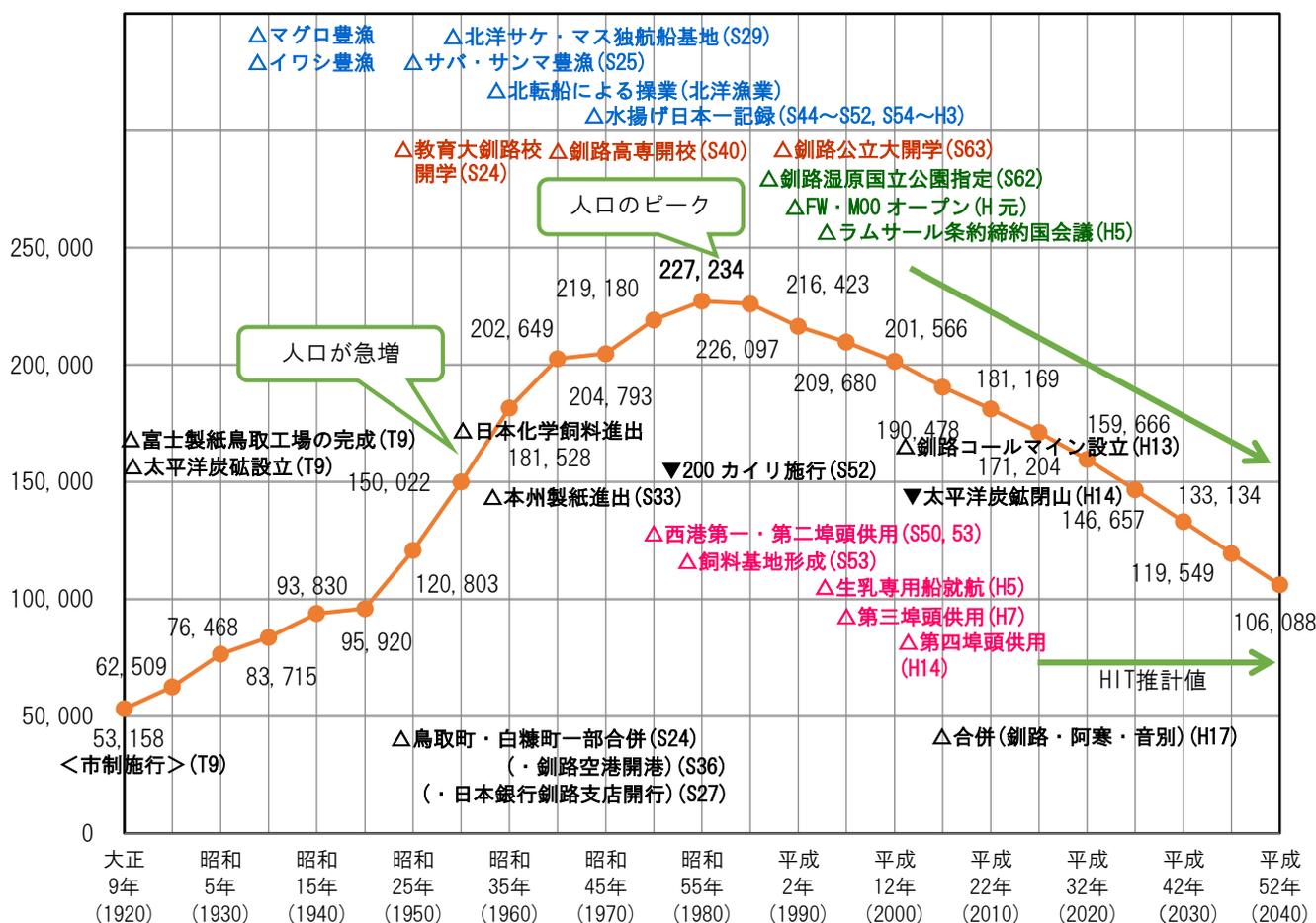
その後、1970 年代に入り、水産業が好調だった事や、製薬会社の進出などもあり、人口は再び増加を続け、昭和 55(1980)年に 227,234 人とピークを迎えました。

1980 年代以降は減少に転じ、現在まで減少傾向が続いています。

この原因は、少子高齢化の進展と、水産業や石炭産業をはじめとする地域経済の低迷による他地域（特に札幌圏、東京圏）への流出があったためと考えられます。

将来推計では、平成 52(2040)年には、106,088 人まで減少するとされており、平成 22 年からの 30 年間で、7 万 5 千人強減少すると推計されています。

(人) 総人口の推移・将来推計と主な出来事



(資料) 国勢調査

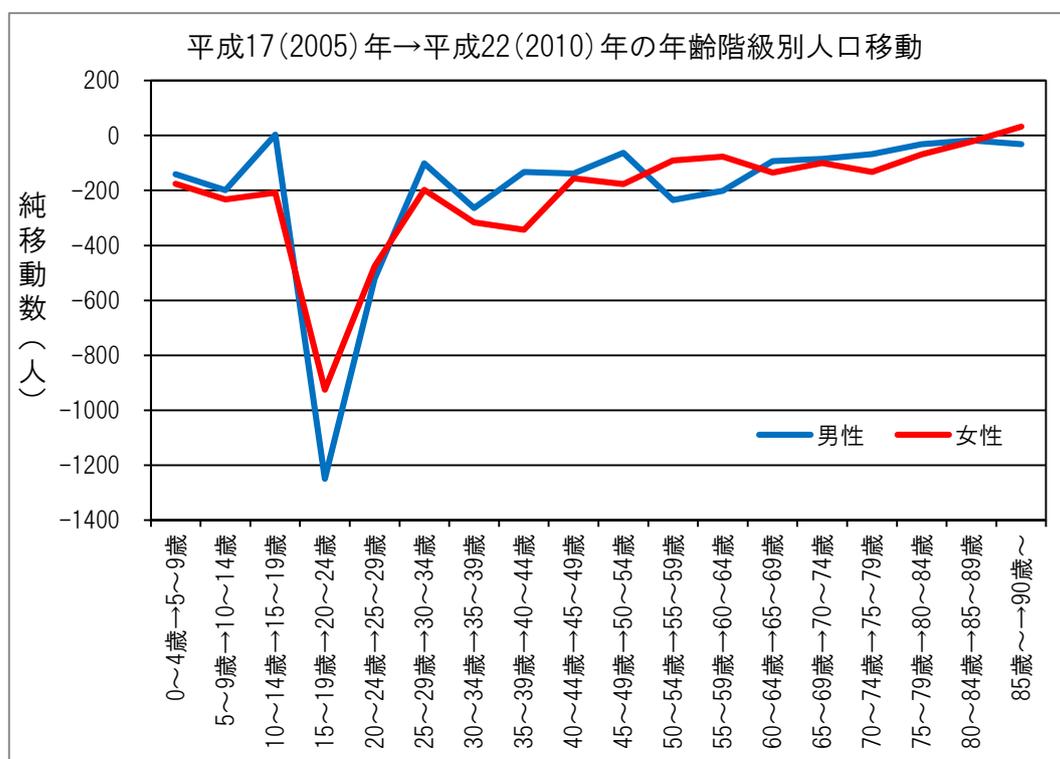
(2) 性別・年齢階級別の人口移動の状況

釧路市は、男女を問わず、ほぼ全ての年齢階級層において、転出超過となっています。

15～19歳から20～24歳になるときに、転出超過が特に大きくなっており、大学進学や大学・高校卒業後の就職に伴う転出の影響が大きいものと考えられます。

女性の85歳以上が90歳以上になるときに転入超過となっていますが、福祉施設への入所等によるものと考えられます。

本市の年齢階級別の人口移動の状況は、1970年代以降「社会減」の状態が続いてきました。近年の人口移動の状況を見ると、転出超過数に占める20～24歳の割合が高いことが分かります。これは、大学・短大・高専等を卒業後に、札幌圏や東京圏などの他地域で就職する方が多いことが背景にあると考えられます。



【 人 口 の 減 少 】

- 将来推計人口
181,169人 (2010年)
⇒ 106,088人 (2040年)
- 人口減の主な要因
 - 【社会減】
若年層 (進学・就職期) の転出超過
 - 【自然減】
出生率の低下 ⇒ 1.35 (2013)
女性 (20～39歳) の減少
- 自然増減よりも社会増減の影響度が大きい

【 課 題 と 影 響 】

- 若年層流出による次世代人口の縮小
- 若年女性人口減 ⇒ 少子化の加速
- 生産年齢人口減 ⇒ 生産力の低下
- 人口減による消費活動の縮小
⇒ 雇用の縮小 ⇒ 経済活動の縮小
⇒ 域際収支の縮小

(3) 釧路市の取組み

釧路市では、人口減少社会に立ち向かうため「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成27年度に策定しました。

【まち・ひと・しごと創生総合戦略の構成】

人口ビジョン ～今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望～

人口の将来目標	目指すべき将来の方向
13万8千人 (2040年) ※このまま人口減少が続くと 仮定した場合の推計値：10万6千人	釧路市にとって特に影響の大きい「社会減（転出者数が転入者数を上回る）」に歯止めをかけ、親になる世代に釧路に定着してもらうことが重要

総合戦略

～人口ビジョンを踏まえた今後の基本目標、施策の基本的方向、具体的な施策～

目指す都市像

未来への『希望』輝く、ひがし北海道の拠点・くしろ

最優先 課題

「域内循環」と「外から稼ぐ」取組の推進などにより、力強い経済基盤を構築し雇用の創出などを図り、親になる世代を確保して急激な人口減少に歯止めをかけます。

重点 戦略

- ① 『わかもの』の希望がかなうまち・くしろ ⇒地域の「しごと」の増加と雇用機会の拡大、市内外から就学した学生の釧路への定着 等
- ② 『女性』の希望がかなうまち・くしろ ⇒女性が活躍できる環境づくりや女性の就労支援、妊婦・出産の負担軽減のための母子保健事業の充実 等
- ③ 『すべての人の『住み続けたい』という希望がかなうまち・くしろ ⇒医療・介護・福祉等のサービス充実に向けた環境整備・人材確保、自然災害に備えた防災体制の強化
- ④ 『来たい・住みたい』と思えるまち・くしろ⇒釧路の優れた自然文化を活かした「世界一級の観光地域づくり」や長期滞在事業の推進 等

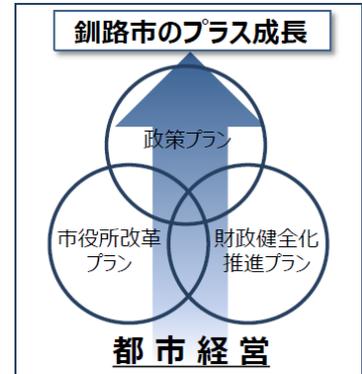
2 釧路市の経済動向と取組み

(1) 釧路市の取組み

釧路市では、将来にわたって持続的に発展していくため、将来を見据えた「都市経営」の基本理念のもと、

- ・「財政健全化推進プラン」(平成 22 年度策定)
- ・「市役所改革プラン」(平成 23 年度策定)
- ・「政策プラン」(平成 24 年度策定)

を一体とした「釧路市都市経営戦略プラン」を策定しました。



※「都市経営」の視点とは

⇒ヒト、モノ、カネ、情報といった限られた地域資源を効率的、効果的に組み合わせて、地域の課題を解決し、プラス成長を目指す釧路市の取り組みのこと

【都市経営戦略プランの構成】

① 財政健全化推進プラン

～市の財政が抱える将来的不安の解消と経常的収支不足への対応のためのプラン～
⇒財政収支試算、経常的収支不足の解消（事務事業や手数料の見直し 他） 等

② 市役所改革プラン

～釧路市が都市を経営していくために、「市役所が変わる」ためのプラン～
⇒市役所、仕事の「見える化」、「釧路市のことを考える職員」の育成 等

③ 政策プラン

～釧路市の特性を生かし、「選択と集中」によって施策の重点化を図り、プラス成長を目指すためのプラン～
⇒自立的な発展に向けた都市づくりの方向性を4つの“実践ビジョン”で重点化

政策プラン 4つのビジョン

【ビジョン1】

地域資源の価値を高め域内循環させる地域経済

人・モノ・お金・情報などあらゆる地域資源を生かした「域内循環（※1）」の取組と「外から稼ぐ力（※2）」の強化 等

【ビジョン2】

地域を担う人材の育成と雇用

生産年齢人口が減少しても未来の釧路市を支えられる実力を備えた人材の育成 等

【ビジョン3】

みんなが安心して暮らせる都市づくり

平時から大規模災害等の対策を意識した防災・減災の取組、コンパクトなまちづくり 等

【ビジョン4】

世界に開き東北北海道をつなぐ戦略的拠点都市

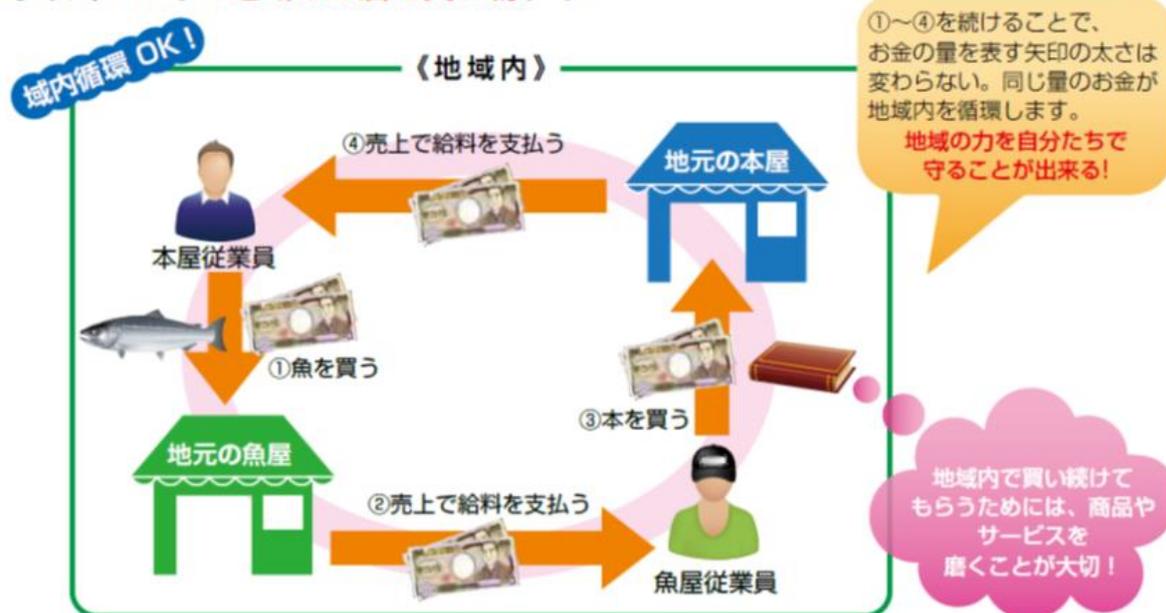
「観光、食、環境」を中心に、釧路管内、釧路・根室圏、東北北海道を視野に入れた、釧路市の拠点機能の充実 等

※ ビジョンの実践には、「自助、共助、公助（※3）による市民協働」を基本とします。

※1：「域内循環」とは

市民や企業が必要なモノをなるべく地元企業から購入し、地域のお金を地域内で循環させ、外に逃がさないようにすること。そうすることで企業と従業員が互いに給料や雇用を支えあうことができます。

●市民みんなが地域のお店で買い物すると…



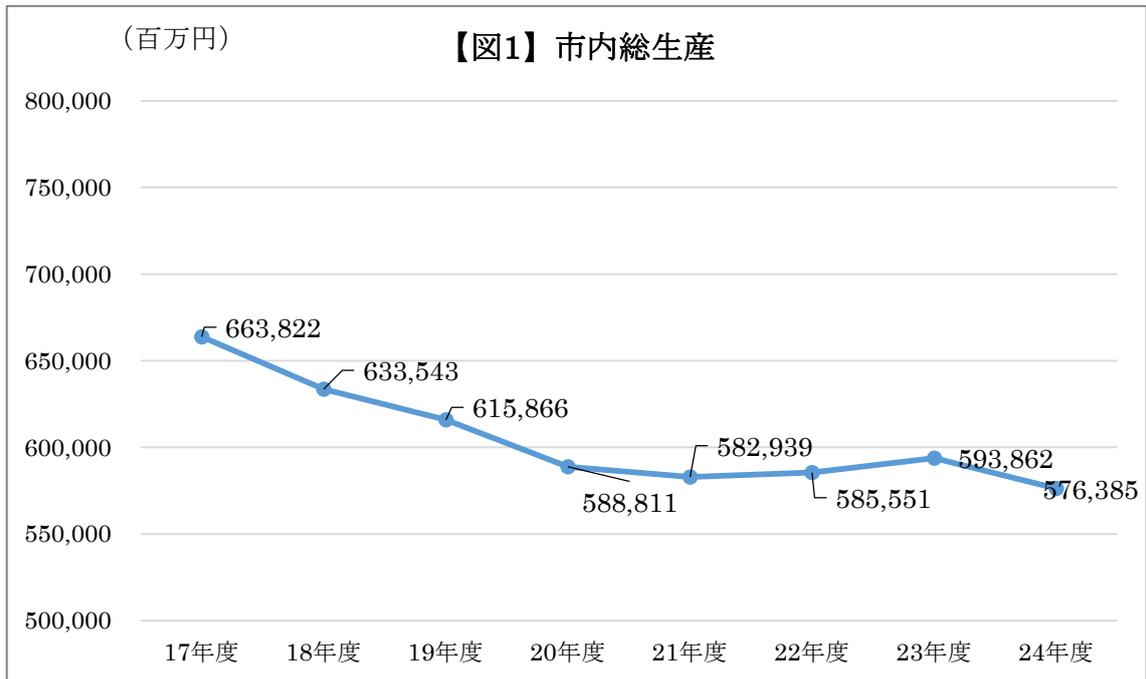
※2：「外から稼ぐ」とは

地域の外に対してモノを売って稼ぐ、また、地域の外に住む人々が釧路地域に来て消費してもらうことで稼ぐこと。外から稼いだお金は「域内循環」によって市民の皆さんに波及していきます。

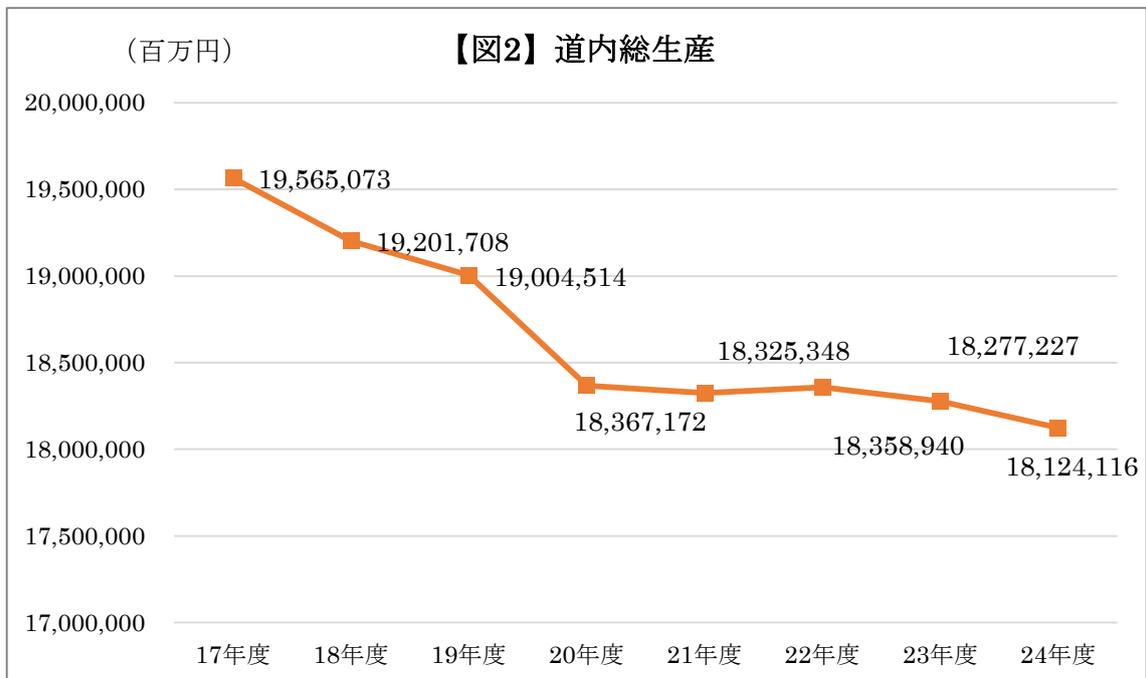
※3：「自助・共助・公助」とは

- 自助：自らの生活は自らが選択し責任を持って行動すること
- 共助：個人のみでは対応できないことを住民が相互に助け合うこと
- 公助：自助・共助では限界あるいは非効率な場合に行政が住民からの付託を受け必要な行政サービスを行うこと

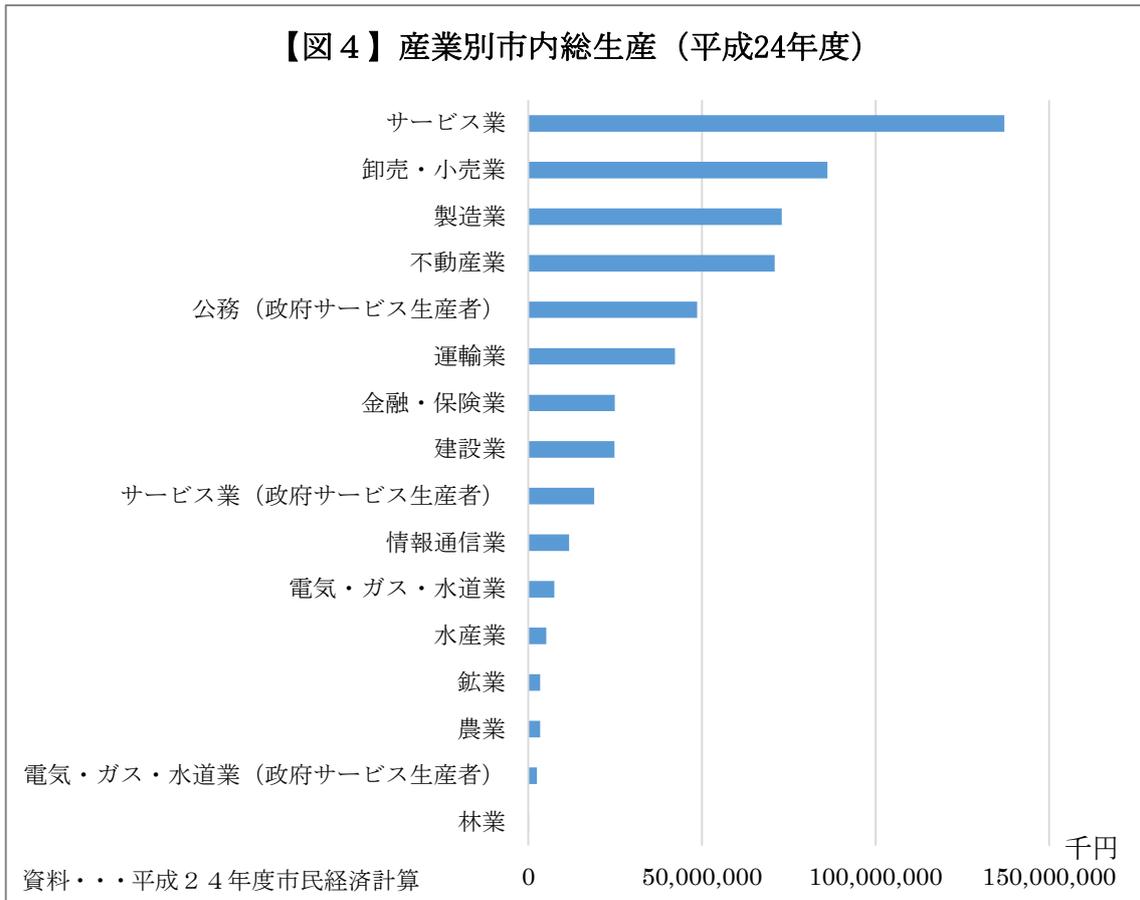
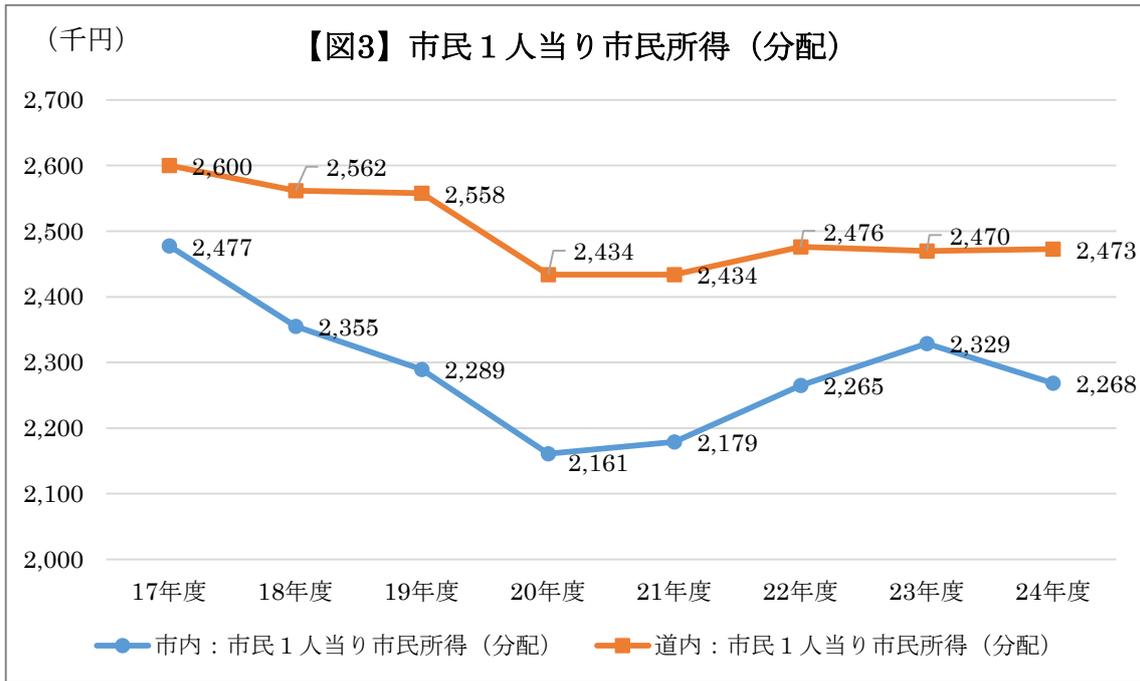
(2) 各種統計データ

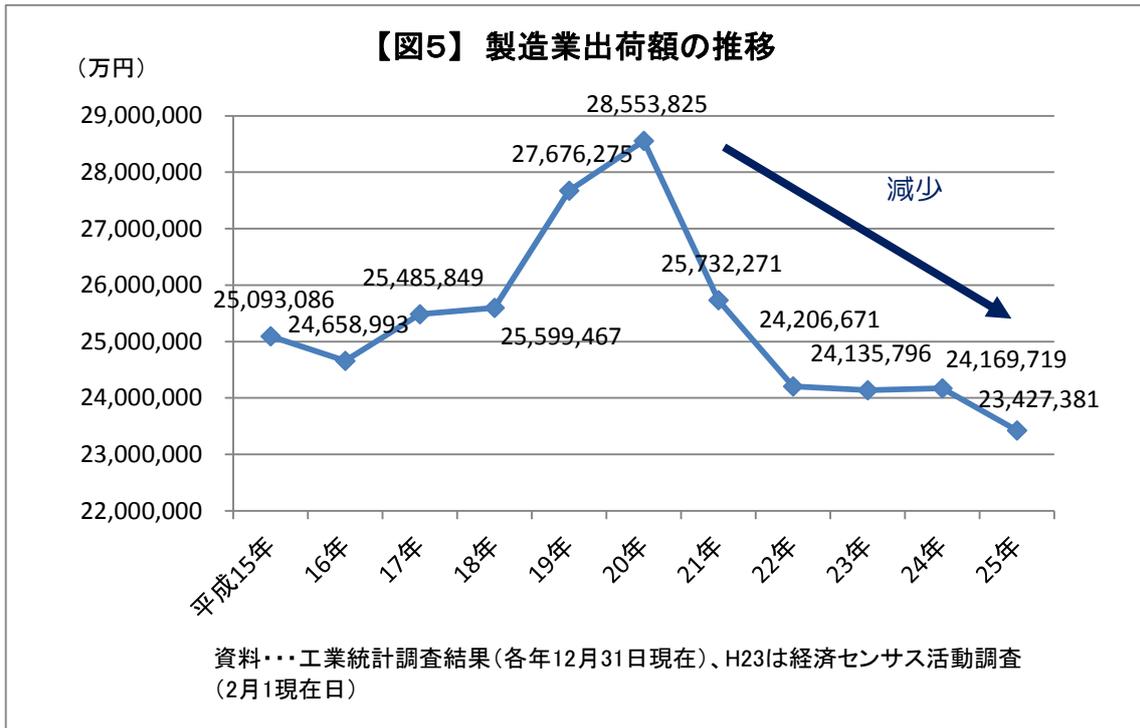


資料・・・平成24年度市民経済計算

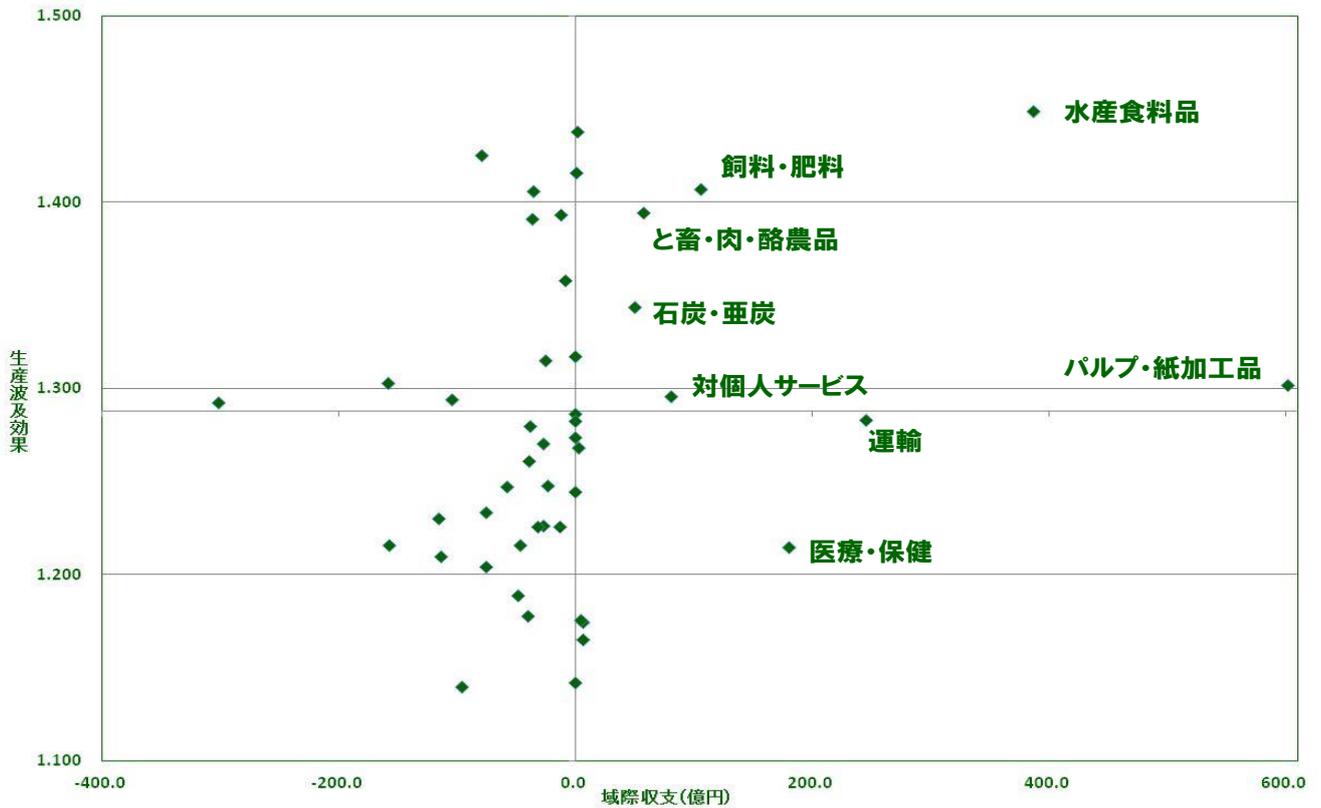


資料・・・平成24年度市民経済計算





【図6】 産業別の域際収支と生産波及効果

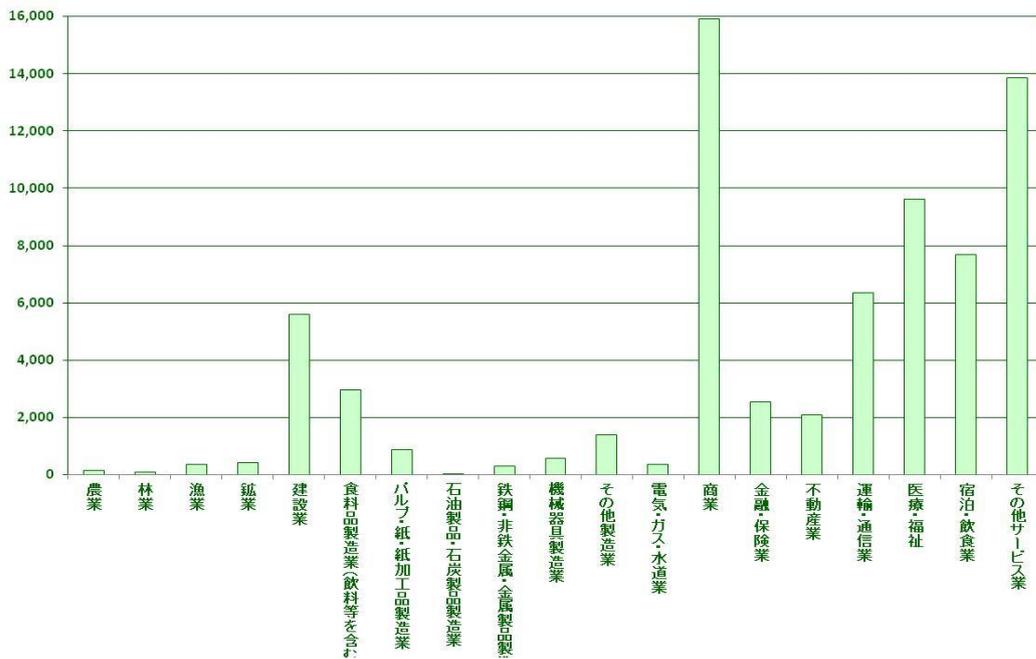


資料・・・平成17年釧路市産業連関表

※ 域際収支・・・移輸出と移輸入の差額

(人)

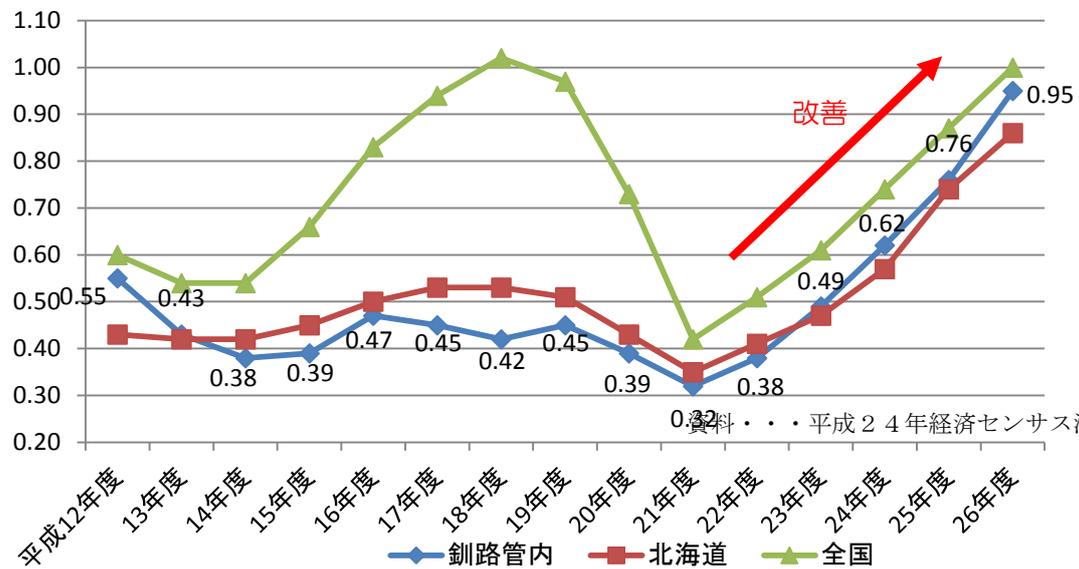
【図7】産業別従業員数



資料…平成24年経済センサス活動調査

(倍)

【図8】有効求人倍率の推移



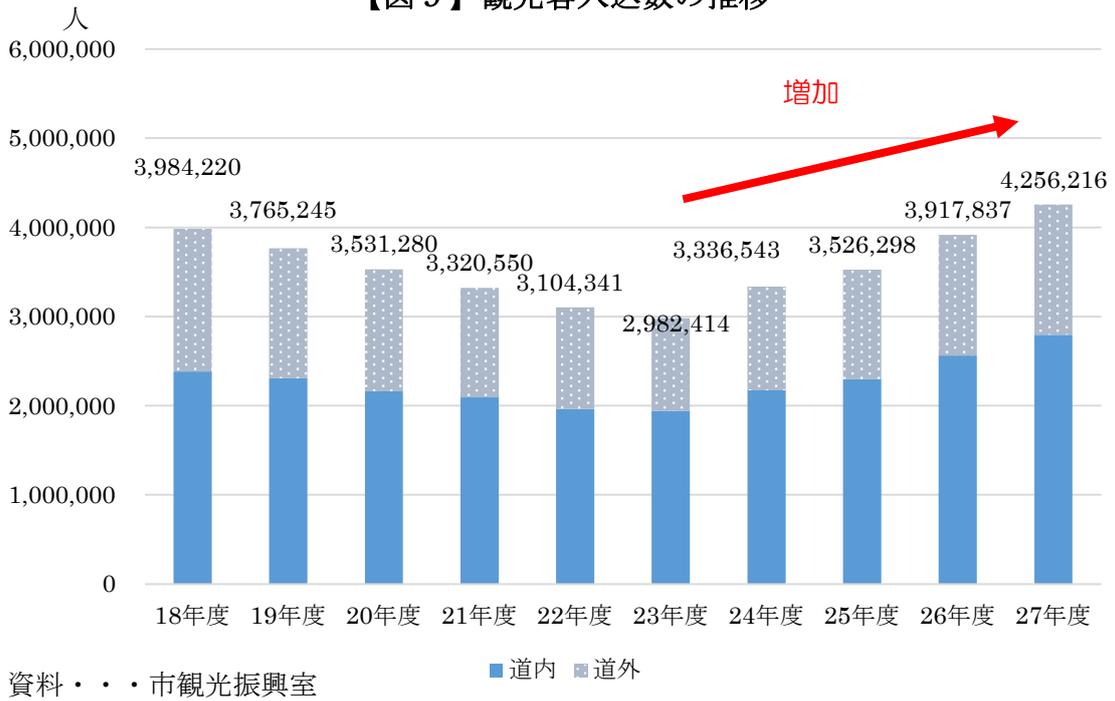
資料…平成24年経済センサス活動調査

資料…釧路公共職業安定所

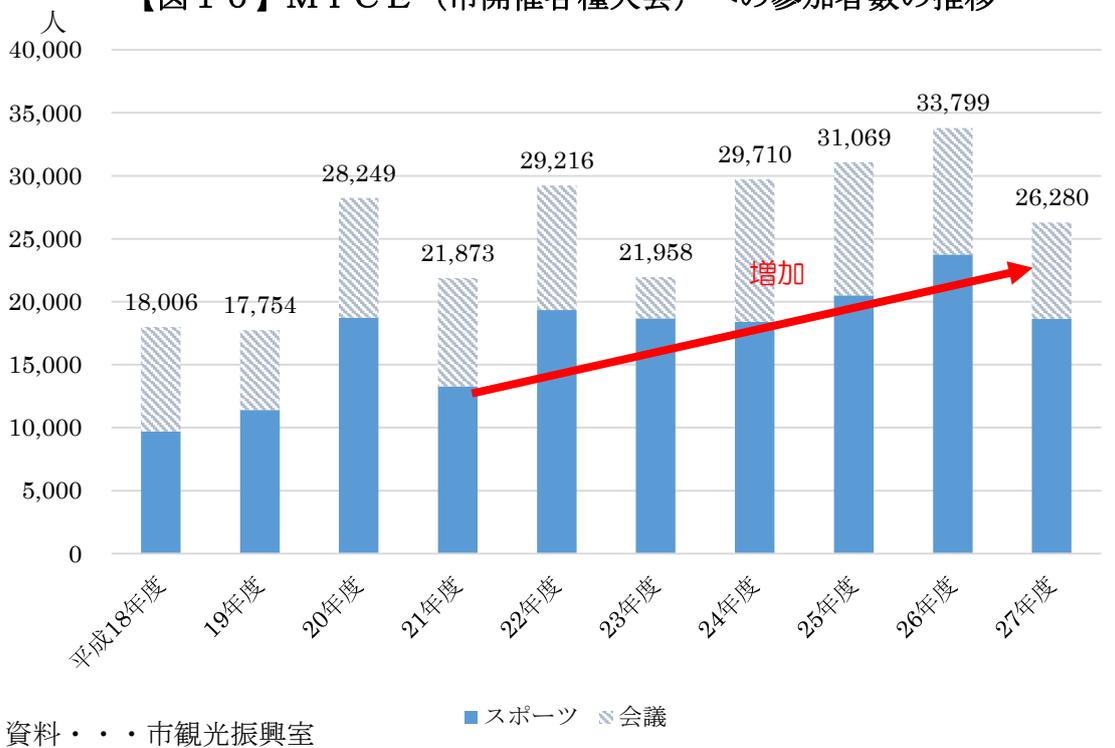
(注1)…有効求人倍率は、月ごとの有効求人倍率を年度ごとに平均したものである。

(注2)…釧路管内のみ、グラフ中に倍率を付記した。

【図9】観光客入込数の推移



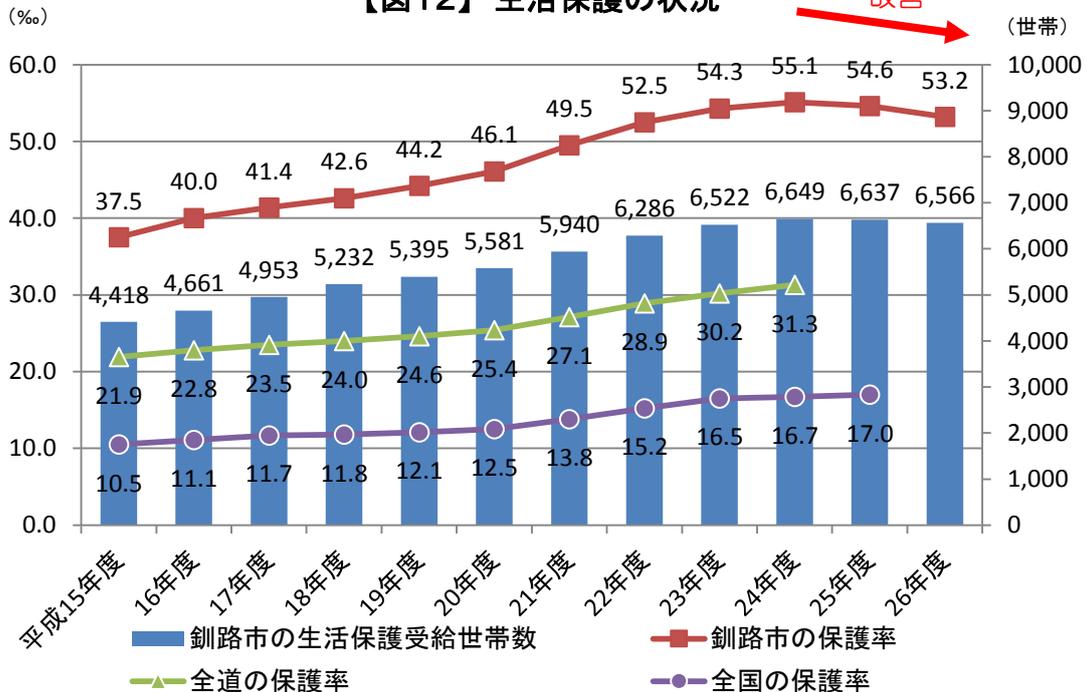
【図10】MICE（市開催各種大会）への参加者数の推移



【図11】長期滞在者の推移



【図12】生活保護の状況



資料・・・福祉行政報告例

(注)・・・保護率の単位% (パーセント) とは、1,000分の1を1とする単位のことを言い、本表では人口千人当たりの生活保護受給者数を表す。